

学校評価(共通項目)評価書

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	3.4 A	・学年行事におけるデータ等の更新は、共有フォルダに必ず保存することで、スムーズな引継ぎ、働き方改革につなげる。	4.0 A	・校長先生の明確な方針のもと、具体的に取り組んでいると思う。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	3.3 B	・4月に自転車通学者への安全指導を行う。 ・来客への対応ができる部屋を確保する。 ・避難訓練日程の再検討を行う。	3.7 A	・破損箇所の修繕箇所がみつからないとありますが、学校としてやれる範囲で努力していると思う。 ・視点の違いが結果にでていると思うので、危機管理においては更なる周知が必要と思う。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	2.7 B	・チャレンジ学習を昨年度よりも増やし、「すららドリル」などに取り組ませる。 ・ステップアップ学習の日程をTetoruやTeamsなどで配信する。 ・保護者会などで、学習や定期テストに関することを積極的に保護者に伝えていく。 ・授業で復習の機会を増やす。	3.3 A	・基礎学力が身につけていない生徒の個別指導を徹底する。 ・先生方は厳しい見方をされているが努力していると思う。今後もひきつづきお願いしたい。 ・教科の学力によってクラス分けし、学習に取り組んでいる。 ・悔過の数値の差は、教職員の思いの差であると思うので、生徒・保護者にも伝える機会を増やせる。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	3.4 A	・チャレンジ学習を昨年度よりも増やし、「すららドリル」などに取り組ませる。 ・ステップアップ学習の日程をTetoruやTeamsなどで配信する。 ・保護者会などで、学習や定期テストに関することを積極的に保護者に伝えていく。 ・授業で復習の機会を増やす。	4.0 A	・ぜひ、保護者、地域にむけて「改善」していることをアピールしてほしい。 ・協議でもあったが、新しい取組があればペルで発信してほしい。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	2.8 B	・整理整頓の項目の改善が課題となっているので、生徒会や委員会などを活用し、ロッカーや机の中の点検等の取組を実施する。 ・しっかりと整理してある写真を掲示するトヨタ式整理などを取り入れるなど、学年ごとの段階をふんだ取組を実施する。	3.5 A	・学校として永遠の課題だと思う。今後も継続してほしい。 ・この課題においては、地道に続けていかなければならないし、満足度を上げる活動を継続していくのみだと思う。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	3.1 B	・学校だけではなく家庭との連携も必要不可欠である。 ・保護者会全体会を生徒の席でやると、教室の整理整頓の様子をみてもらえるのではないかと。 ・整理整頓に関しては、教員が帰りの会後に教室の状況を確認することも不可欠である。まずは教員の意識が大切である。	3.7 A	・学校として永遠の課題だと思う。今後も継続してほしい。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	2.8 B	・昼の校庭解放の推進・球技大会など学年や全校で取り組める行事の新設・体育館の開放・全体体育などを検討する。	3.8 A	・学校の取組が成果として表れていると思う。今後も継続してほしい。 ・昨年より行事を増やしたり、運動する機会が増えた。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	3.3 B	・体調管理やケガの防止のため、自らの能力に合った課題や強度を選べる資質や能力を育てる指導の工夫、充実を目指す。	4.0 A	・学校の取組が成果として表れていると思う。今後も継続してほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	3.2 B	・五中はPTA組織がないため、保護者との相互の情報交換を活発にすることで、連携を強化し、教育力の向上へとつなげる。	3.8 A	・とてもよく取り組まれていると思う。だから地域の目が暖かいのだろう。
	10	学校は、家庭や地域と協力して生徒の安全指導、健全育成を進めている。	3.1 B	・年度当初の保護者会は学級懇談会のみで終わることなく、学年職員の顔合わせを実施する。学期に一度の保護者会も全体会と学級懇談会にし、生徒の状況を知ってもらう。 ・学校での取組情報を発信するために学年通信等を活用する。	3.7 A	・「天災は忘れたころにやってくる」と言う。震災の記憶がうすれつつあるからこそ、取り組んでほしい。 ・生徒にこうあってほしいのと生徒がこうしたいとの乖離はうまくつらいが引き続き検討の推進が必要である。
特別支援教育	11	学校は、インクルーシブ教育を意識して、特別支援教育に取り組んでいる。	3.0 B	・交流を大切にしている。 ・五中の環境で満足せずに指導を継続することが必要である。 ・保護者の理解に関しては情報発信する必要がある。	4.0 A	・通常学級と支援学級の交流はきわめて重要だと思う。先生方の支援をお願いしたい。
	12	生徒は、お互いを尊重し合って、交流し生活している。	3.3 B	・取組を継続する。 ・全部を尊重するのではなく、指導しなければいけないことに関しては、指導しなければならぬ。	4.0 A	・先生方があたたかい目で生徒を見守っているからこそである。ありがたい。 ・やれることは違うかもしれないが分け隔てなく接する環境は互いにうれしい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満